

とつてハ部類ともハ死罪ハ所入下
とよふ礼と立よと宣ハ即ち礼と書
り
改宗記

藩鑑卷之二百二十目録

た部六

松平隆奥と藤原政宗



藩鑑卷之二百二十

松平隆奥と友原政宗

一 政宗の行状折解は具うる事も是
ありは但し世々流布の記録是あり
るは相記さるゝ及つて或るは政宗
在古井古館以利勝様へ口招清是あり
以掃りの跡より口見送りなり

四家長折中外記をきつう道に途中
に下右の候を因せし道に駕籠座立
らぬ外記をきつうあむにつらぬ駕
籠座立の候に付りては何とも四指探
はあつぬ四日をすしりし候に外記
の鼻のちんぬ四指あつぬ外記事
ゆへ御駕たちの辭もあつぬ相替居之
の具つてきつうつらぬ外記の道具

かひり相替もつて右四日をきつう中
きつういよつて 武門諸元拾遺

一 行儀をなすに酒席はあつぬと思ひ
きつう侍もきつういよつて中政宗を
行儀に持あつぬゆへに遊孝中座に付り
急外千石のゆへに中政宗を
あつぬ中政宗のゆへに中政宗
翌日遊孝の礼をきつう昨日酒席の上

甚しく驚き今まては着て去るる
事あり價を以て買取らるる又の
持持たるを我よりわたらると思ひ
けしもの贓物を取たるもあまはあ
ししうりあり汝より書名を以
て右の名龍百首贓物の逆主知是居
や佐渡屋へ尋ぬへしと仰くる佐渡
屋中御しけしものは若州の浪人今川

末馬とて者家跡のありにては所は
近年困窮よ及び贓物よ入るる
年限三石とて入るを由りたり
たりあり政宗早速飛脚を以て
金五兩を添へ右今川末馬を尋め指
述うしけり佐渡屋はつかも事よ
うありけしんと迷惑しけしとせ
しうりかき陸阿弥まて潜り聞

けしき少しもらよ変むしうしき其
方志は清入たまひぬ道具あり
了後求馬には返さぬけりあり
辨ぬくして後緒たる名の日より右の名
龍百首の物語かけし政宗言られ
けしきは最初志のありしに
入るも質物よりなりもの
美りりたましきしなり右の

道具国竈に于質よ入るもの
もなけりしは叶やぬ義理合の
ありし事ありと押返し美り
し今川求馬より浪人の家珍の
うしにつる名はしんし金子
少しお添きし返しありし
けしき一産たるは感せし後求馬
若州よりしき政宗へ礼謝の為

りりけき目見りるもぬんら
り持抄あり澤田中の料り二十人
及持給せしむ未馬は南蛮流の外
科を貫居けり其上字力もあり
用よりきく者かおはくまき
吾を人をして問りあはるは
りり恩り感りたる事かおは
ちよりりひて願書りぬ是より

素子を速く勅命を積り是程大將
りまきり後よりたり政宗不思議の
恩恵にり人を得りきたりり人
みか嘆きりり太平將士名族

一 松平隠岐守及び何れ祝儀事の振
席是あはるとり松平陸奥守及び上座
りりり一門中兼四入魂の四大名
鷹く四旗本元も兼りりり後樂

の具は是ありと云ふは陸奥も及小
用よ四立り道ある道よ兼松又四所

千二百石
四所院者上

と云ふは四旗本居り道よ陸奥

も及の長上中の裾蹴也一のところ又
四所よさつりたるもと云ふ又四所きつり
ぬ男に云は侍々先布と通ら道い
と云ふもさつりけ道とも礼儀の族
扱もあくまゝに掃りにほもさつりまひ

は礼儀もあゝと云ふ何と云ふたる事や
らんと云ふは政家さつり
たるは四免少と云ふは又四所
急外者よと云ふ立上り扇子を持て
政家の肩衣のあゝと云ふ三つ叩る
と云ふは双音へ大勢毎月別合け事
よかゝと云ふは一大事と云ふは又
ると云ふ又四所を踏まゝと云ふは大勢

つきて居政宗は書院にお市の是
事りて平親よして能の終るを侍
能終るも接投り人出て又四所儀也
今は是外りて一たり能急ゆへの
儀よは器重にも口免わさねとて口
取持の元中一アテも一とて政宗延
きよき苦しうも我等石礼の辰の
口免りて志しあう又四所おとをお

よよはらる者よあはさくアテも
一志うも又四所へ口免わさねとて
別ち柳子出り政宗の脇にはお井
日向直清及つきて居るも又四所
よの柳生但馬も宗能連てあもて
かり政宗を酒を請一の吞て
又四所へも一も又四所は政宗
の盃を請一の吞て居るも何

者とはあつても勝手より醫者指至
進みおの四益の間を仕とて政
宗へ益を戻さぬやりと進み出
りてとて但馬も及間は入らぬ
けり今一つ請ふとの事とて又四
席まゝ一つ吞ぬと政宗よりや
大増おてとてとてとてとてとて
る我曲めまひひをすてあり

席をとりとてとてとてとてとて
ぬけりて何とやとてとてとて
末席と進路とてとてとてとて
と無の交り頼みおの申の酒宴か
と謡ひひけとてとてとてとて
物とて其間とて又四席益をもち
以亭至の細とてとてとてとて
ひて一庭首尾とてとてとてとて

ぬくは政宗、くく、兼松又四郎、よ、お是
路、ふく、ゆえ、く、政宗の居敷より、
家中の者とも、騎馬にて、追々、追有
る事、懸く、く、事、あり、く、隠は、後
門、前、ま、く、ま、く、も、居敷、に、は
静り、か、く、く、一、圓、よ、く、く、く、
か、く、卒、あ、く、因、よ、入、る、事、く、も、あ、く、ぬ
ゆ、く、門、前、よ、見、合、居、る、因、よ、大、勢、因

音の福の聲、聞え、く、ゆ、く、く、は、別
條、か、く、く、政宗の家中の者は、ゆり
ぬ、く、あ、く、ん、永、井、日、向、古、後、の、味、を、聞、く
人の、味、を、く、聞、か、る、事、あり、又、四、郎、兄
名、字、右、の、喧、嘩、の、後、又、四、郎、と、義、絶、つ、
く、く、く、其、証、は、さ、く、も、あ、く、ひ、あ、く、
く、居、あり、く、又、四、郎、の、名、を、聞、く、
た、く、あ、り、扇、子、に、く、封、さ、く、も、よ、く、く、

相子あはれい政宗をおもひよしたる
らりて武士の本意あはれよは政宗は
即ちかきく沙汰よあり諸人臆病
とはらりて又四序は無法者の名をとり
存命まらむこしと本意よありて
まより一生の間義絶りては
あり
爾靈の友古老物語
寧國赤後堂殿
一隆興寺政宗は活氣の人あり或るに

戸河城にて酒井彌次も忠勝も立向ひ
角の一書系ありあり忠勝の具する
事よあはれひ公用ありて戸河を退る
たりり重ての事よははらんとて辞退せ
らるるも政宗義絶りせしむたら
まら角のたとも緒大石列座の前よ
て黄門羽林のあま至勝負をともむ事
あはれりりて晴あはれりりて事あ

一時は井伊掃部政連が進みおきて
も一掃別頁たまひては口譜代の
名におゝん我等関を撲りて出で陸
奥も版を投中さしんよ子間のともへ
らまゝくさしけりも思勝は力量
あも人あまの政宗を大腰よりけり
かけらまゝよ政宗むくく起より
此邊はおもひの外よ相撲の切者うか

と獲首せしむ河城とくもむか
ふのまゝかむ振とあるは兼松又四郎
政宗を無礼の人とや思ひけしむ或
き兼松松平隠岐も版の宅にけり政宗
兼松の肩をなましり拵ふて倉新もか
く通くしんせしむよ兼松頼り
政宗を別とめ版を叩てきりしん
たしきけりも政宗ちんも驚りし

廟を同くして打て腹うしむありといふ所も
も亦や大坊とりし十番うりたる所か
うしむ辭しよ着たせし道しよあり誠
し政宗の業は不足あるべきに在る
に取あしむる政宗の叢明を感し
けしむとあり 校合雜記

一 仔達隆興と及政宗上寺へ四糸詣より
北へ向ひ唐小路を四通りありけるは

駕の先を控切し押を通しんとする者
者ありすは狼藉と先徳の大勢取
つらみせしめける隆興と及早く詞
をうしむやまかきふかしく大音の四
糸は景ありけるは列の外に実か
四通りあり隆興と及四糸りの後今日
復藉の者信の中にし見知りし者
ありやとわしむる四糸ありける

桐野の月瀧り者の仲間とも申ける
は當時町方又は山鹿本の子孫達
腕立なりしころもあまは者おと多く
四座長末倉組といち組沼紙組等と
申しよ〜今日の復藉者は好し沼紙
組より四座長末沼紙組の多くは旗本
等より四座長末奉公も成りしころも子息
達にたりしころも四座長末沼紙組の

つとあまはれら其後又指上寺前唐小
路にて山鹿の習よりいあ〜同〜風俗
の若者四座長末〜別入ける山鹿奥も及
聲をたうけきりか〜捕へり〜大音
と作せけまの取う〜み捕へけるを志
りり是〜山鹿桐野の中よりい〜みて
あ〜帰り何の云分もあ〜首を別〜
まけ〜山鹿のい〜旗本元の子あり

けしき其親類中より志りの首を以
討り事了在懐人の公儀へ訴へありける
口を申より四目討らるるに四目自陸奥
及家来を以時移子四舞ありけるは復
藉の元等約もあらず移子以て告討の
向て右の首作けしきも志りのまゝ
きりけしき

大猷院様上聞より達しける上言は陸
奥も事今まて武道より不詮議あり
事せざる者殊文世度の事はは
一度は実退け徳悪しけるを彼者
己の血を執りて又復藉を志うけた
るは志りの首を願ひたるものあり
其復藉を以りみま告討すも事
一願もまて目前の石履あり討出
し月棟梁の者を以て討せしめし

世に……是と上意より一類中の二
人遠流く是のうも七八年後の口免
あり……とあり 寧国系族叢

一 政宗系親四郎のうも道中、猪籠を持
せり……今の隆奥も及も……通は
り……政宗系親の節、四郎、堀に、猪
籠、在り……此、在り見の者、見、及、各、以
政宗……は、酒、と、碎、口、堀、堀、に、

猪籠、亦、運、忍、り……酒、狂、り……
亦、事、初、運、り……ヤ、り、も、類、入、り……
時、服、浪、十、枚、各、見、り……
後、大、能、及、り……亦、私、儀、酒、と、碎、口、
堀、堀、に、猪、籠、在、り……運、忍、仕、り……
見、は、た、ま、り……亦、運、り……
大、能、及、右、の、趣

大猷院極く平上りて是の口法殿の
の事あり政宗平くのやりあり元
何の口かまひも口法殿あり上
あり 寛元開書

一 二條行極く小使付く所の是あり
小使付り者科銀一枚つて中
管あり右の所へ政宗小使付く是
ハ増至る見あり右の通りてハ後箱

の目よ是あり黄金二枚取あり是ハ重
て又小使りてハ是の為ありと
海一平上りてハ同上

一 諸大名元来各

権現様

名徳院様

大猷院様河三代の批判を仕り

権現様四事は各角の詳も及ハ

正仁行二代を考へ見奉るよ

大猷院様四教明よ四度あうれゆ

ありけまの行達政宗やける報を

見よまの申う志まのりてあるゆ

能く音もあは行三代の月よおた

らともや上へまやうかーとあり能

持抄ありとく同

一 堀尾信濃守及遠別藩松在四孫願

布くあく行達隆興守政宗及依見よ

り國へ四孫りあさるくく信松へ四

弟の事あり信濃及より大守と家

守中四人在四孫よおまけり堀尾宮

内小瀧行孫松田在近堀尾宗女あり政宗

大守とにや駕籠より四中り四人の並

居たりお前へ四歩み三間布と前より

松田虎通くく四中へ三番同よ居る

るらうらうら改在中け道の間みか
り了残り三人の名つて四将乞まて
名出らる事しあく悔く信ら道
四城より四料理四絶乞のりちよ丸
逆在四時中一四聞及びひの場致
四間大首あくぬ四楮深あり信濃及先
布と家老元逆よ出ら道いりまも
初めて逢見知らまも松岡在道

は其方うらうら改在中け道の間みか
不審よあく一四勢ひ四中よ信濃
及も穢よま如何に一了在道
四詞在うけら道中やありけぬ
うねの事よ今日そふ余も
在道よ逢しよ一在在聞よも
見初る一好く余り一あま
葉のこく名出ら道一其初る

事は又みしるに石胃にて肝の
左より胃ありと兼りて存在所は四人
並居るも中の小胃石人ふかぬた道
と西より新りりて西中ありける信濃
海も大ききと笑ひありけるあり寧園外
後叢
一 大猷院様時代には諸事活たむ
事しるに諸大名を召連つて道にありあ
たけよ四取地ふのともく行もも諸大

名元船うまうり結核ありは事しるに
あしけり

大猷院様大土点在四持ありれり陸
奥の政宗ありと是より吾りしとくさる
にけり中よりねは少か越中も政宗
三益香中しとく上意あり政宗有
しとくしとく致すに載三益中より四取
存在立りしと致す道に其土是也

へくありりや四句辭もあまのこくを
中さうもいりや其七恙そく職申取了
余もさうと恙あり其そく職申取了
土恙を渡さく四取上げたうもさ
職申取一りせく政宗一とくも職
申さ辭退仕そくあやうある礼酒の
ありてい四主極も依北のせぬもの
ありりり中さうねくもつさ業一り

とく政宗服指をぬき捨せりりあ
四椰子を取ひりりさり高聲さ
り上は官位を中さうの三位中絶言矣
別六千百石の大名の砂さうは
上極も始りりり四度あまのこく末
代まへり四費りり二の古さうもいりり
り上りり其七恙さう二の古さうね
ひりりあなり政宗一りいり

諸大名乱酒より名成り了順の舞より
あもあり水戸殿は能上子にして自
居士を以舞いあけりりの新を舞
しとてさくさくにして新を舞し
まは金森出雲守仁王の志似を
毛利長門守及は肥後守りたる人
て其性ゆへ大黒舞を名にせり
こころの外無調法より皆まての舞

終り中さくさくは舞信濃守及は
私在所より酒古踊とて口舞いより
上すこ踊をりしひりうまは
まりあつしと皆さくさく
郎及笑ひあしりうまは
大舞ひよりこころの外口舞
より何も踊りし順の舞は

寛元園書

一或日千住筋へあつせらるる河敷筋に
ついでに所々日奥列の国主伊達中絶
言政宗系絶りて千住へ歸りたまふ
政宗の家系主人へ了けりは今日
公方極千住へ河敷のよき河敷仕當
兵今のうも河通りたつてもいやりは
河駕籠を早めりてくもりて政宗
聞たまひておしも急ぐよ及んば

常の通りよ急ぎて急物よお
あり千住河駕籠場を繰りて通り
けり。

家光は例のよき河通りつげよ
了河通りよ急物を繰りて急物一人留
りて千住河通り河通りて急物
けり折角河通りの士は皆急
へ散り一人もあらず政宗駕籠の

りちりり

家光公ありと見奉りけりまとも和
らぬ顔——丁系物よあり往還に
通しきけり

家光公も山内より南の系物のりち
かゝるたりと政家ありん何とて
系物よりりちりちやと思し古けり
其日も終日口教存ありて常よあり

還行ありその後中納言政家系親の
口礼よ責懐せしきけり
家光公政家よ信せしきけり
我等千位へ鷹野よ出——とて貴方
は能見ぬありして通しきけり
戯のやりよ上意ありけり
丁口請よありしとて日は私存あり
口當地へ着仕千位にて

上極行成のち〜集りり道々
をつは〜も首て四逆習の士をも
見りけ〜留申〜四逆習一
人等〜を居て牀〜腰を杖
在在の外は行者をも見ぬけ〜
と〜と〜

家光公御よ其留申よ居けるも
我ありとありけ〜政宗集りり

さ〜は〜や〜四逆習やぬせ〜
て不調法侍りいま〜四逆見や
上座儀い〜方〜四逆野〜成せ〜
ま〜光〜四逆習の侍をも右達ら
れ〜四一人四逆習り抱〜事
御も〜

上極の四事は凡たり〜一人四身
百金より重〜在左平の四世とは

ありし如何なる野人の者ありては
鷹野先を伺ひし事をもよりりり
し又は

上様と見らりて並祈仕りし人も知り
し兔角正通習の侍を相癒りし事
を教りし事と違りし事と云ふは
し中よりしけり

家光も在りし事と思はるる事

あり 諸家大秘録

一 大猷院様政宗と云基を扱つて政
宗一着勝りし政宗中よりし事
はもつていふ事もいふは扱つる
事ありし事あり政宗中よりし事
扱つていふ事もいふは扱つる
事ありし事あり政宗中よりし事
扱つていふ事もいふは扱つる
事ありし事あり政宗中よりし事

四服指在取中一もくくく中一上はかのりや
と四意指つうもは在むりなぬちや
五のくくり存立中一今一番指つうは
くはのくく上意はくも聞入るる存
きい種外四廿う指つうもはく早速右
うせうもはくくくく一意懐はくま
四けくは指つうもくくく一にけく四か
これくは政宗負中一則く政宗服指

在四取指つうもは政宗ソヤく中一
むりよ四取あさくはく一か事く是の如
るさく上意指つうもはく一や古身は
四意は定めくは物にけく是あはく
思名くは四めくは四階是あさくはく一
日にけく四意はくく一もく四信元百うは
ら通はく四意はくく一日に在持在はくは
と四取あはは志強くく一は

在阿くせら進めよ〜と意あり政宗
是は迷惑あり〜中上は口好き口説
あ〜ね〜の竹口よ〜口好く〜想て
河筋通く石器ら進めよつ〜て大
本日を指す〜ね〜や石室あり寛元開書

一 大猷院様のおき〜口茶湯〜政宗新を
郎と云せら進め〜口教を履よ〜口
料理わ〜進め〜口汁鶴〜茲路入

中上新を郎及兼て少〜この外
嫌に〜口好く〜も無程〜顔志
り〜口好く〜口勝〜口立抱字好
因〜政宗中〜口好く〜新を郎及に
〜この外喰少〜口〜見元中〜口行
〜舞〜進め〜新を郎及私事〜元身
少〜嫌よ〜給〜口早進あ〜口
中〜口好く〜政宗云〜口好く〜入〜

とく懐中よりあやし波の桐波袋取
ゆし口料理わさくはくさく喰ふくさ
物は是より入中へ能はくしにへ入ら給
とあり目上

一松平隆奥も政宗日くわ大服は好み
けも所二丸より口酒盛の第口盛下
う進けも第右服は好みより
前へ在かけぬ上意より年寄て服指

の好くさくも右儀あるく重く
好く儀を用はく其方儀の
行も右是の心是あもや口好抱は
くとも上よは少くも口氣きひと思
右儀是あくはくも同服は好み
あつて口盛下くもさく上意
あり政宗漢在流

東照宮

名徳院極へり身よおゆる四奉公仕
 當公亦極へり何の四奉公も上より
 有しき上を蒙りけりもとて四益
 取裁しけりもとあり或るは政宗
 酒宴の筈にけりもと大辨しけり
 右大服指を好む捨違けりも四奉公
 間より四指を好むとて見けり中
 身を亦目よせしけりもとて

大猷公の四指を好むとて徳よあり
 けりもと或人論しけりもとて
君臣言の録



[Faint, illegible text on the left page]

[Faint, illegible text on the right page]

